

SSKW

巣立ちだより



— 目 次 —

- ・ 障害者総合支援法と今後の障害者施策のあり方 … 1-2
- ・ 取材協力 … 2
- ・ いろいろ応用できる認知行動療法 … 3
- ・ ケア・マネジメント学習会を開催しました … 4
- ・ 若者のメンタルヘルスへの関わり方 … 5
- ・ シンフォニー 完成お披露目会が行われました … 6
- ・ リカバリー・カレッジ 第一期生募集 … 7-8
- ・ 第10回 愛のふれあいコンサート 予告 … 8

障害者総合支援法と今後の障害者施策のあり方

これからの障害者の

地域自立生活に向けて

三鷹市大沢にあるにじの里で2月9日に行われた「にじの会公開講座」に参加してきました。上記のテーマで、日本社会事業大学教授の佐藤久夫氏の講演と、巣立ち会の大野もパネラーとして参加したパネルディスカッションが行われました。2006年の障害者自立支援法の成立

と改正、そして2013年障害者総合福祉法へ。また障害者基本法の改正があり、今年には障害者差別禁止法が制定される予定です。障害者をめぐる法制度が新たに創られたり、大幅に改正されたりが続いています。変化が速く全体の把握が難しいのですが、大きな目でみれば障害者の施策が発展する途上でありましょう。しかし昨年年末の政権交代で今後どうなっていくか不透明さが増しているのも現状でしょう。

わたしたち巣立ち会も時代の変化に対応して事業を運営してきています。最近では相談支援

事業野の花の変化が大きくなっています。当事者への支援がケースマネジメントという方法が主軸になってきつつあり、当事者の多様なニーズを、多様な資源を活用して支援するという方法論です。

そのようにケースマネジメントで地域生活を支援し展開するという考え方において、精神障害を取り巻く状況でも、医学モデルから社会モデルへの転換が求められる時代になったと捉えたいと思います。

日本では、「精神障害は、健常ではない異常な状態であり、隔離をするか治療してあげる。」という考え方になりがちな時代が長かったのです。「障害を個人の問題として捉え、治療が

うまくいけば解決できる」と考えるのです。これに対して社会モデルでは「障害は個人の体に宿るものではなく、社会によって作りだされるもの」と考え、「社会の構造を障害者が困らない形にして、障害を取り除こう」と考えるものです。

障害者を二級市民のように扱い、不幸が宿命づけられているとの考えから乗り越えなければなりません。社会制度をそのように改善できれば、障害者だけでなくだれにとっても寛容な社会に近づくことができ

るのです。そのような社会になるよう巢立ち会職員は各所で頑張っている活動しています。

（巢立ち工房 松岡）



取材協力

昨年10月に社会福祉系や、教育系、看護系の教育機関で学ぶ学生を対象とした東京学芸大学の教育実践研究支援センター准教授の橋本創一氏の監修の教材となるDVDの撮影依頼がありました。巢立ち会では、以前にも一度教材となるDVD製作に協力した事があり、今回で2回目の取材となります。

今回は「グループホーム」について、どのようなところで、利用者はどのような方達なのか、どのような人たちが支援者として働いているのか等取材したいとのことでした。そして12月、1月に地域で生活するグループホーム利用者の密着取材が行なわれました。ある利用者の方は、1日の流れ（起床から作業所通所、家での家事の様子やくつろぎの時

間等）、また他の利用者の方は、通院の様子や夕食会の様子、訪問看護の際のやりとり等、地域で生活している実態やグループホームが関係機関と連携を取りながら利用者の生活を応援している様子の取材を受けました。また利用者の方達のメッセージ、職員のコメントが収められました。

どのような作品に仕上がっているのか、完成が楽しみです。

現在、精神保健福祉に関心を持っている学生さんたちに、地域での生活支援について、少しでもイメージが湧き、興味を持ってもらえたら嬉しいです。

「私たちも地域で働いてみたい！」と思ってくれる学生さんが、誕生してくれることを期待しています。

（巢立ちホーム 那須）



－ いろいろ応用できる認知行動療法 － ～大野裕先生 講演会から～



2月23日（土）の午後、毎年この時期に開催している三鷹市精神障がい者地域支援連絡会主催のイベントとして、国立精神・神経医療研究センター認

知行動療法センター長の**大野裕先生**をお招きして表記の講演会を開催しました。

大野先生といえば、一部では「認知行動療法の伝道師」と呼ばれているほど、認知行動療法の普及啓発にご尽力されています。その講演会は各地で満員となり、大きな反響を呼んでいるところです。

当日は175名の参加があり、手狭な会場で机もなく参加者の皆様にはご迷惑をおかけしたかとも思うのですが、実は定員の倍近い申し込みがあったところを、今回は断らずに受け入れようと考え

て、お受けした次第です。担当者としては冷や汗ものでしたが、それにしても先生の人気の高さを肌で感じました。

当日は、三鷹市長の清原様から、心のこもった開会のご挨拶を頂きました。

大野先生の講演時間は約3時間でしたが、途中に「気合面接」なる爆笑ビデオ（もちろん「ダメな例」です）や演習も入り、最後まで集中して聞くことができました。

現実的思考の重要性について、「現実に目を向けること」と「プラス思考」の違いは、この業界に長年携わる私も恥ずかしながら混同していました。

実際のスキルとしても4つの方法を紹介されており、「自分が自分の治療者になる」ための、非常にわかりやすい指針として実際に使えるものばかりでした。

アンケートでは、なんと85%の方が「非常に期待通りだった」（4段階評価で4）という驚異的な結果でした。しかも今回は、参加者の種別が非常に幅広かったにもかかわらずこの数字で、担当者としても本当にうれしい限りです。

私自身は、実は大野先生の講演を聞くのは3回目でした。ただ、以前と違い実際にシンフォニーで様々な認知行動療法のプログラムを実施していて、ある意味認知行動療法が「支援のプラットフォーム」となっている状況に身を置いているためか、そうした認知行動療法の幅広

さをもう一回まとめ直せたというか、実に「腑に落ちた」感覚が持てて、すごく楽になった感覚があります。

大野先生、お忙しい中本当にありがとうございました。

（シンフォニー 長門）



ケア・マネジメント学習会を開催しました

1月17日の夜に、巢立ち風にて「ケアマネジメントの理論と実践」と題した学習会を開催しました。



講師として、当初は12月に野中猛先生にお願いしていたのですが、体調不良のため急遽岩上洋一先生にお願いして実現することができました。

当日は30名の参加で、遅い時間でしたがノンストップで2時間半、集中した時間を持つことができました。参加された方、大変お疲れ様でした。

昨年4月から拡大された相談支援の枠組みですが、初年度も終わりに近づいてきた現段階でも未だ、有効に活用するというよりかは、様々なレベルで「どのように活用していけばいいのか」を模索しているところだというのが実感です。都内の行政でも対応に大きなばらつきがある一方で、早くも書類上の些末な（ある意味で）事柄に対する締め付けが始まりつつあるなど、本質を外した展開に戸惑うこともあります。

しかし、岩上先生の講義を聞いて感じたことの一つは、やはりこの相談支援は、ソーシャルワーカーが支援の中核として活用できる「武器」であることに間違いのないことでした。

実際、岩上先生の相談支援は、当会とはまた違った角度から、障害者福祉の枠組みを超えた「地域保健＝コミュニティメンタルヘルス」に活用されています。ケアマネジメントの対象者群は「重く、急がない」方々であり、先生の行っている「どこにもつながっていない人に対する相談支援」や「コミュニティを巻き込んだイベントづくり」は、まさにこれまでサービスが行き届かなかった部分へ手を伸ばす“アウトリーチ”であり、それは当

会の退院促進やうつのリワーク・早期支援と、対象は違えど行きつく先は同じところにあると感じました。従来型の「目に見えるニーズだけに対応する」ことを一概に悪く言うつもりもありませんが、先に何が見えているのかで使い勝手が変わってくる、そんな怖い武器なのかもしれません。

私は3年前にシンポジウムで三鷹にお呼びした時以来の「岩上ファン」なのですが、ご本人は「あ、そういう人は多いんだよね」とニヤリ。でも、心なしかふっくらとした印象があるのは、ご多忙の中にも充実感のある仕事をされているのではないかと思いました。「面接の中で利用者に何か言われたら、とりあえず『あ、それ良いね』と言っとくべきだよ」という感覚は、やっぱり良いです。さすがでした。

さて、この記事とは直接関係はないのですが、私（長門）は2月3日に埼玉で行われた「野中猛先生に感謝する会」にも参加しました。こちらも、さらに広い視点からのケアマネジメントが語られていて、相変わらず知らず知らずに背筋を伸ばして聞き入ってしまいました。

野中先生とは、なぜか初対面でいきなり一緒に焼き肉を食べることになったのですが、その時はほとんど口もきけず、後で猛烈に反省した（正直、ろくに挨拶もできず本当にひどかった！）ことがあります。その後何回か先生の研修を受けることになるのですが、その度に目が覚めるような、そんな研修会でした。「PSWは事例でアピール、役に立つ専門家でないと意味がない」との言葉を胸に、今後も頑張りたいと思います。

（シンフォニー 長門）

若者のメンタルヘルスへの関わり方

—長汐先生の講演会に参加して—

「スクールソーシャルワーカー」という言葉を恥ずかしながら長汐先生の講演会で初めて耳にしました。スクールソーシャルワーカー(以下SSWと略記する)とは、学校の中で起きている問題をソーシャルワークの方法によって改善しようとする役割であるということでした。この「ソーシャルワークの方法によって改善する」という点が、SSWの大きな特徴であるように感じました。そもそもソーシャルワークとは、困りごとを抱えている方の話を伺い、その方に合った社会資源を探り、サービスを提供しながら一緒に困りごとを考えて解決していくことを指します。従ってSSWは、必要な社会資源を探して作るという資源開拓の業務も含まれます。そしてこの資源開拓の業務はSSWの任務を遂行する上で非常に重要な活動であると長汐先生はおっしゃっていました。それ以外にも、相談、同行代弁、情報提供の3つの仕事もあるそうです。

ところで、現在子どもが抱える問題は多種多様であり、1つの問題に対して様々な要因が絡み合っており、解決することが非常に困難であるという現状があります。長汐先生の講演の中にも何例か事例が挙がっており、子ども達の置かれている非常に厳しい現状を耳にしました。その中でどの事例にも共通しているキーワードが「愛情の欠乏」ではないかと思われました。「愛されたい」、「もっと自分を見て欲しい」という思いはもともと子ども

もが持っている感情であると思われ、そしてその感情は自身の身近な大人、つまり両親に向けられるものではないかと考えられます。それが何らかの理由で満たされず、かつ、長期に渡ることによって子どもの問題行動を生じさせているように考えられます。このような背景には、近年、虐待をはじめとする機能不全の家庭が増加しているということが挙げられます。子どもにとって家庭が安心できる拠り所として機能し、さらに両親からの愛情を注がれることによって、子どもは健全に成長していくのではないかと考えられます。しかし機能不全の家庭では、親自身も問題を抱えている場合も多く、何世代にもわたって問題が発生してしまうということも少なくないようです。こういった世代間連鎖を断つためにもSSWは子どもだけでなく、親にもアプローチしていくこともあるそうです。

最後に、講演の中で「何が正解か分からないけど、やるしかない」という長汐先生の言葉がありました。私の働く領域とは異なるかもしれませんが、同じ支援者として、相手が何を必要としているのか、出来ることは何なのか、日々模索しながらこれからの仕事に励んでいきたいと感じられました。

(巢立ち風 山内)



シンフォニー 完成お披露目会が行われました

11月10日（土）、この度新しく完成したシンフォニーのお披露目会を行いました。

調布市長の長友様や議員の方々などご来賓の皆様、また日頃よりお世話になっている、賛助



会の方々、近隣のクリニック等の精神科医をはじめとした関係者の皆様方100名を超える大勢の

方々と共にこの会を祝うことができましたことは、主催者としてこれに過ぎるものはなく、お忙しい中ご臨席賜りましたこと心より厚く御礼申し上げます。

会は来賓ご祝辞に始まり、ソプラノ歌手・バンドウーラ演奏者ステパニユック・オクサーナさんによる素晴らしい歌と演奏が会を盛り立てました。そして後半の懇親会では、利用者によるルポゼのプログラム紹介上映とColor利用者による挨拶があり、シンフォニー設立の趣旨を共有させていただきました。

さて、あらためましてシンフォニー管理者の長門です。

この原稿を書いている2月末時点で、ようやく建物完成・事業新規開始に関する諸処手続き等が「ほぼ終了」となりました。長い道のりでしたが、建物の機能、使い易さ、外観イメージ等の考案・検討の経過にはほろ苦い思い出もあり

ますが、今となっては良い思い出です。

先月に実施した第三者評価における利用者アンケートによると、ルポゼもColorも総合満足度が予想以上に高く、私は心から安堵したわけですが、そこにはハード面もいくらか貢献しているのではないかなと思うと、苦勞の甲斐もあったかなと思います。

毎晩、品川通り沿いに発する虹を模したネオンサインは理事長たつての案で、ユースメンタルサポート「Color」への思い入れが伝わってきます。

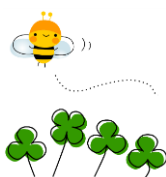


作業所職員時代にはなかったプレッシャーが常に押し掛かっていますが、ようやくそれにも少し慣れてきたところです。

これからも、大勢の有能かつ楽しい臨床心理士さんと共に、リカバリーへの共通のベクトルを保持しつつ、ルポゼ・Color共に新しいタイプの「生きるスペース」の充実を目指して、七転び八起きで頑張っていきたいと思えます。

調布の関係者の方々をはじめ、皆様におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

（シンフォニー 長門）



リカバリー・カレッジ

— 第一期生を募集します —



"I'm excited to hear about
Recovery College.
It's good to start small!"

皆さん、昨年3月に来日された、ジュリーさん（左写真）を、覚えていらっしゃいますか？
自らもこころの病のご体験を持つジュリー・レパー教授（英国ノッティンガム大学）の講演会に、感銘を受けられた方も沢山おられると思います。

今春より巣立ち会では、ジュリーさんの講演会中に紹介されていた、「リカバリー・カレッジ」を、三鷹市ピアサポート事業の一環としてオープンします。リカバリーとは、精神疾患を抱えながらも意義ある、満足のいく人生を立て直していくための概念です。そして、リカバリー・カレッジとは、英国で創立された精神疾患を抱えた当事者のリカバリーのための新しいサービスです。自らの人生をより豊かにするために、自ら求める教育の場です。現在、英国では国民保健サービスの一端として6か所で運営されて

おり、今後はデイケアに代わるサービスとして、一層増えていく予定です。

三鷹地域での運営は三鷹市と社会福祉法人巣立ち会が連携して行ない、市の公共施設にて行なわれます。学習内容は、「リカバリー」概念について、セルフマネジメントの方法を学ぶもの、当事者のスキル獲得と社会参加を促すもの、施設職員がサービスの質を向上させるためのもの等、予定しています。より豊かに生きるための手助けとなる授業が満載です。多くの方々の参加をお待ちしております。

ちなみに、ジュリーさんに三鷹でのリカバリー・カレッジの開催を伝えたところ、大変喜んでくださり、具体的なスーパービジョンの為、今春はるばる、巣立ち会を訪れて下さることになりました。

（巣立ち風 リカバリー チーム）

次頁に続く

< 詳細 >

- ・ 受講期間：平成25年4月23日より春期、秋期、冬期の3学期制。
- ・ 開催日：火曜日、水曜日、金曜日の13:30～15:30
- ・ 受講定員：各講義15名前後
- ・ 学費：無料
- ・ 申込み方法：

登録及びコース内容確認は、下記にご連絡ください。

- 巣立ち風・リカバリー・チーム：小林/下村/田中 Tel: 0422-34-2761
- E-Mail: sudachi-kaze@sudachikai.eco.to
- ウェブサイト: <http://sudachikai.eco.to/katudou/pia-support.html>

（現在ホームページを更新中です。しばらくお待ちください。）

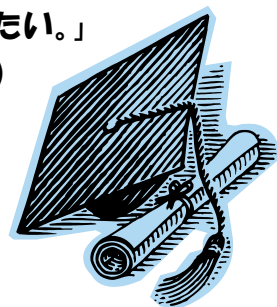
*リカバリーとは？

- 「生きていくなかで、他人の評価とかは関係なく、自分自身の生きざまに対して“いいね”と言える状況」

（リカバリー・カレッジ ピアトレーナー）

- 「学ぶこと。人との出会い。ドクターに言われたら反発することもあるけれど、仲間と言われたら素直に薬を飲もうって思える。病院に入院している人達に励まされて、その人達の役に立とうと思えたら涙がでた。人の役に立ちたい。」

（リカバリー・カレッジ ピアサポーター）



第10回 愛のふれあいコンサート 《予告》

毎年、お世話になっている関係機関・地域の皆様をご招待し開催している本コンサートも第10回を迎えます。今年もご覧の日程、会場で実施の予定で皆様楽しんで頂けるよう準備を進めております。

お誘い合わせの上ぜひご来場下さい！皆様のお越しを心よりお待ちしております。

（こひつじ舎 渡邊）

【日時】：2013年7月5日（金）

【開場】：18時 開演：18時30分

【場所】：調布市文化会館たづくり くすのきホール

【出演】：大谷康子（ヴァイオリン）、川嶋 仁（ピアノ）

※ 出演者は現在の予定です。



編集後記

海からは津波来襲、空からは隕石落下！自然の驚異の前に、人間の力の如何に小さきことか。惨禍を受けた人々の嘆きと復興への労苦はいかばかりかと思う。改めて自分に何が出来るかを問い直してみたい。
（小島）

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
定価 50円

編集；社会福祉法人巣立ち会
〒181-0014 東京都三鷹市野崎 2-6-42
Tel 0422-34-2761

<http://sudachikai.eco.to/>
sudachi-kaze@sudachikai.eco.to